

雜 錄

世界鐵鋼生産狀況 (1934年) 昭和10年1月15日附在獨帝國商務書記官長井亞歷山報告) 獨逸鐵鋼業組合が同組合機關紙「鐵及鋼」に發表したる處によれば、最近の世界鐵鋼生産高は次の如し。

○世界銑鐵生産高 (單位 1,000 噸)

	1932年	1933年	1934年(豫想)
歐洲總生産高	27,625	31,861	41,510
獨逸	3,933	5,267	8,720
ザール地方	1,349	1,592	1,180
佛蘭西	5,537	6,324	6,180
英吉利	3,631	4,190	6,060
白耳義	2,749	2,749	2,920
盧森堡	1,960	1,888	1,950
致須國	450	499	610
蘇聯邦	6,217	7,189	10,400
伊太利	497	553	580
波蘭	199	306	380
瑞典	282	347	530
埃地利	94	88	140
其他諸國	729	873	1,200
歐洲外總生産高	12,032	17,433	20,740
北米合衆國	8,922	13,559	16,500
加奈陀	163	262	440
日本	1,541	2,032	2,300
其他諸國	1,406	1,580	1,500
世界總生産高	39,657	49,294	62,250

○世界粗鋼生産高 (單位 1,000 噸)

	1932年	1933年	1934年(豫想)
歐洲總生産高	33,430	39,945	49,420
獨逸	5,770	7,612	11,800
ザール地方	1,463	1,671	1,960
佛蘭西	5,640	6,531	6,170
英吉利	5,505	7,295	9,280
白耳義	2,791	2,743	2,920
盧森堡	1,956	1,845	1,920
致須國	660	761	970
波蘭	551	817	840
蘇聯邦	5,900	6,900	9,200
伊太利	1,497	1,875	1,790
瑞典	537	640	860
埃地利	205	224	310
其他の諸國	955	1,024	1,400
歐洲外總生産高	17,614	28,373	31,460
北米合衆國	14,000	23,737	25,780
加奈陀	343	410	760
日本	2,292	3,097	3,570
其他の諸國	980	1,129	1,350
世界總生産高	51,044	68,318	80,880

粗鋼の世界總生産高は1933年度は6,840萬噸なりしが、1934年度には8,100萬噸、即ち18.4%の増加を見るに至れり。又1932年度には世界經濟恐慌後の影響により僅に5,110萬噸の生産高を見たるに過ぎずして、之を恐慌前の最高生産年度たる1929年に比すれば僅に其42%の生産高を見たるのみなり。而して1934年度には再び其66%に達する増産を見るに至れり。

銑鐵の世界總生産高も同様の状態に在り。即1930年度には4,930萬噸なりしが、1934年度には6,230萬噸、即ち26%の増産なり、

而して最高生産年度たる1929年度に比すれば、1932年度の生産高は其約40%に過ぎざりしが、1934年度には再び其63%に達する増産を見るに至れり。

歐洲の1934年度鐵鋼生産高は、銑鐵は4,150萬噸及粗鋼は4,950萬噸なり。之を前年度に比すれば前者30%及後者24%夫々増産を示し居れり、殊に獨逸では激増を見たる次第なり、即ち前者では66%及後者では55%の増産なり。又ザール地方の1934年度鐵鋼生産高も前年に比し前者15.6%及後者16.9%の増産なり。

蘇聯邦の鐵鋼生産高は著しき増産にして、銑鐵生産高は1,040萬噸に達し、北米合衆國に次ぎ世界第二位の生産國となれり。之に反し粗鋼生産高は920萬噸にして未だ第四位に在り、而して粗鋼生産では歐洲にては獨逸が第一位を占め、其産額は1,180萬噸なり。英吉利は第二位にて其生産高は928萬噸、又佛蘭西の生産高は617萬噸なり。

(海外經濟事情昭和10年第5號)

英國輸入鐵鋼製品に對する増稅斷行 (3月27日著在英、松山商務參事官電報) 英國鐵鋼業者は、斯業改造計畫が大陸品の安値輸入により阻害せられるとなし、屢次の申請に於て從量稅採用と増稅を要望し居たるが、關稅諮問委員は大陸品は主として半製材料品なる關係上、消費者の利益を第一義とし、次の増稅が大陸品就中白耳義品を仕上品に轉向せしめ、精製品の海外市場競争激化を誘致する事態を憂視し、先づ以て大陸カルテルとの協商を懇請する方針を示し來りたる處、英國同業のカルテル加入問題は主義上接近出來たるも、肝心の内外市場割當數量に於て暗礁に乗り上げたる形にて、環境は英國側に有利轉廻の見込乏しきのみならず、ザール獨逸歸屬以來カルテル内部の動搖、白耳義貨動向懸念等不安材料加はれるに、輸入競争は寧ろ悪化の兆あり、即ち客年大陸品輸入は前年より著増し、市價も安値競争の傾向明白なるを以て、(英貨にて3割、輸出國貨にて6割に達する値下ありと) 某諮問委員の態度も一轉し、國內業者の建議する(イ)現行稅は保護の用をなさず、(ロ)改造計畫實態が生産費低減並海外市場進出を困難ならしむ、(ハ)特にカルテルとの商議に當り政策上にも増稅の要あること等の主張を再議するの新協定成り、其結果増稅が必ずしも消費者に不利を與へず、カルテルとの協商促進の見地よりも得策なりとの信念の下に、今次の増稅干涉を見たるものにして、改正稅は Rail Bloom Billet Hoop Slab Bar Angle Garderd の類に從量稅採用と共に増稅を斷行、3月26日より實施せるものなるが、現市價に照し5割或は夫れ以上に當る稅率なりと云はる。

(外務省通商局日報第65號3月28日)

歐洲大陸鋼管カルテル解散 (外務省通商日報第73號4月7日)ザール地方が人民投票の結果獨逸に歸屬せる爲、同地方の鋼管工業をも完全に獨逸國內鋼管組合に編入す可く、1935年2月20日獨逸鋼管組合はデユツセルドルフに於てザールのホンブルグ・アイゼンヴェルケ・ア・ゲ代表者と接渉せり、接渉の中心問題はホンブルグ社が、從來佛國市場へ供給しつゝありたる鋼管の數量を、獨逸鋼管組合に依託販賣せしむるの實際方法に在りたり、而してホンブルグ社は從來佛國の鋼管組合のみならず、同時に獨逸鋼管組合にも參加しつゝありたるに依り對佛販賣數量が獨逸組合に移轉せられたる場合、獨逸鋼管組合内の同社の割當量は上對佛販賣量に相當す

る増加を見る筈なり、然る處獨逸鋼管組合内のホンブルグ社の獲得割當量に關し双方に難色ありたる爲遂に了解するに至らず、ホンブルグ社は獨逸組合の條款に従ひ組合脱退の通告を發せり、此處に於てかザール地方鋼管工業の獨逸復歸問題は、其根底に於て動搖し從て歐洲大陸鋼管カルテルの存續も亦危險に類したる次第なり。

其後2月25日に至り大陸カルテル参加諸國は代表者を伯林に送り再びザール問題の圓滿なる解決を計らんとせるも何等の効果なく、1940年迄有效なる大陸カルテル協定は、定款内の保留規定適用の下に解散を見ることとなりたり、抑々歐洲大陸鋼管カルテルは鋼材カルテル及其他の壓延品カルテルと異り、單に輸出に關してのみ割當を制限するのみならず、組合員の割當量は國內販賣をも包括する販賣總量に對して許可しつゝありたる處、近年に至り公共事業並民間事業の躍進を見たる獨逸は、國內の鋼管の販賣状態も大いに改善を見たる爲、獨逸鋼管組合の大陸カルテルによる制限内の輸入可能性は著しく狹隘となり、從て獨逸鐵工業全體の操業率が大いに改善せられたるに比し、鋼管工業の操業率は依然として55%前後を出ざる状態に在り、此點に關する獨逸鋼管組合の不平も、前記伯林會議をして不成立に終らしめたる一大原因なり、蓋し獨逸側の斯る不平は、同國が外貨爲替を渴望しつゝある現状に鑑み容易に諒解し得る處なり。

1926年に於て獨逸並致須國鋼管協定の延長として、組織せられたる歐洲カルテルは、諸種の國際鐵鋼カルテル中最基礎堅固なるものと稱せられ、前記2國の外波蘭、佛國、白耳義、洪牙利も之に参加しありたり、亦一般關係業者方面は歐洲大陸カルテルの解消により、同カルテル對英國、加奈陀、北米合衆國間に成立しつゝある世界鋼管カルテル協定の存在も危くせしめられ、日本又は瑞典生産業者との協定も同様に、纏て中斷の運命に陥るものとの觀察を下しつゝあるものゝ如し、國際鋼管カルテルは歐洲大陸カルテルと異り、外國市場のみに關する協定にして1935年3月末には自然解消を見るも、之が延長又は改組は歐洲カルテルが新に組織せられざる限り

議題に上る餘地なく、獨逸鋼管組合は單に前記ホンブルグ社との協定のみを成立せしめんとして引續き交渉をなすものと見られつゝあり。
(以上在獨、長井商務書記官報告)

墨西哥國に於ける水道鐵管並附屬品輸入税改訂 墨國政府は市民の保健上より水道敷設を奨励し之に資する爲水道鐵管類の輸入税を改減し之に關する大統領令を3月6日官報にて公布せるが其新舊稅目及稅率次の通り。

- (新) 稅番 3,53,40 内徑 7 センチ迄の鋼、鐵管 (別掲なきもの) 每疋、7 仙
- (舊) 同 3,53,40 内徑 15 センチ迄の鋼、鐵管 每疋、7 仙
- (新) 同 3,53,41 内徑 14 センチ以上の鋼、鐵管(別掲なきもの) 每疋、2 仙
- (舊) 同 3,53,41 内徑 15 センチ以上の鋼、鐵管 每疋、2 仙
- (新) 同 3,53,44 内徑 7 センチ迄の鋼、鐵接管 每疋、7 仙
- (舊) 同 3,53,44 内徑 15 センチ迄の鋼、鐵接管 每疋、7 仙
- (新) 同 3,53,45 内徑 14 センチ以上の鋼、鐵接管 每疋、2 仙
- (舊) 同 3,53,45 内徑 15 センチ以上の鋼、鐵接管 每疋、2 仙
- (新) 同 3,53,47 内徑 7 センチ以上 14 センチ迄の鋼、鐵管 (別掲なきもの) 每疋、4 仙
- (舊) 同 な し
- (新) 同 3,53,48 内徑 7 センチ以上 14 センチ迄の鋼、鐵接管 每疋、4 仙
- (舊) 同 な し
- (新) 同 3,53,49 内徑 30 センチ迄の鐵板製管(全面に穿孔を有するもの) 每疋、5 仙
- (舊) 同 な し

本改正稅率は公布の日より5日後實施されるものとす。

(昭和10年3月11日附在メキシコ堀公使報告)

昭和10年外國鉄輸入高表 (單位吨)

(鉄鐵共同販賣會社)

月次	輸 出 國 名					其 他	計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典		
1	25,347	102	—	204	5	17,876	43,534
2	24,037	203	—	—	—	14,835	39,075
計	49,384	305	—	204	5	32,711	82,609

昭和9年12月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品 名	生産額	12 月中	前 月 中	前 年 同 月	1 月 以 降 累 計	
					昭 和 9 年	昭 和 8 年
金	(gr)	1,275,455	1,224,061	1,185,238	14,661,626	13,492,797
銀	(gr)	19,139,455	18,345,168	17,714,565	214,059,438	185,345,119
銅	(kg)	5,899,898	5,326,947	5,819,178	67,777,864	69,313,710
鉛	(kg)	547,885	582,710	614,053	6,777,799	6,808,632
錫	(kg)	2,580,535	2,662,161	2,452,856	29,637,307	28,900,963
亜鉛	(kg)	135,752	130,571	77,902	1,181,322	931,135
硫	(t)	12,177	11,696	9,950	128,423	108,510
黄鐵	(t)	95,749	89,902	83,942	1,075,263	893,681
鐵	(t)	391,361	469,791	398,580	5,018,993	4,784,406
セ	(t)	72,712	74,500	57,195	802,705	713,746
石	(t)	2,948,078	2,827,206	7,975,954	33,061,960	30,049,421
油(原油)	(100l)	207,716	206,346	180,809	2,318,213	2,183,621

昭和10年1月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品名	生産額			品名	生産額		
	1月中	前月中	前年同月		1月中	前月中	前年同月
金 (gr)	1,300,193	1,275,455	1,087,393	硫黄 (t)	11,503	12,177	8,663
銀 (gr)	18,701,758	19,139,455	15,988,683	硫化鐵 (t)	103,207	95,749	85,481
銅 (kg)	5,420,056	5,899,898	5,106,624	セメント (t)	371,319	399,913	402,604
鉛 (kg)	492,188	547,885	544,710	硫安 (t)	71,494	72,712	56,425
亜鉛 (kg)	2,568,014	2,580,535	2,430,206	石炭 (t)	2,789,933	2,948,078	2,819,558
錫 (kg)	128,634	135,725	68,166	石油(原油)(100%)	275,114	207,716	178,979

主要製鐵所に於ける1月分鐵鋼材生産高調 (單位吨)

	1月分			%
	昭和10年	昭和9年	増減	
銑鐵	175,314	160,066	15,248	9
{ 内 鮮				
{ 滿洲	44,934	39,352	5,582	14
普通鋼	358,204	278,299	79,905	28
販賣向鋼片	11,249	6,230	5,019	80
同シートバー	11,900	12,104	-204	1
鍛鋼品	4,488	5,424	-936	-17
普通鋼壓延鋼材	281,605	215,206	66,399	30
合金の部				%
合金鐵塊	2,633	232	2,401	1,034
合金鋼塊	6,307	4,646	1,661	35

壓延鋼材内譯

	1月分			%
	昭和10年	昭和9年	増減	
厚7mm以下鋼板	25,400	16,506	8,894	53
其他鋼板	54,547	45,497	9,050	19
力板	7,502	2,881	4,621	160
鉄棒	71,455	49,450	22,005	44
形鋼	38,942	27,946	10,996	39
軌條	36,026	30,456	5,570	18
線鋼	31,725	31,441	284	1
鋼材	12,566	7,873	4,693	59
其他	2,442	3,156	286	9
合金の部				%
合金鑄鋼材	786	587	199	33
合金鋼材	4,810	3,365	1,445	42

備考 増減中一は減を示す。

主要製鐵所に於ける2月分鐵鋼材生産高調 (單位吨) -印減

種別	2月分			果計			
	昭和10年	昭和9年	増減	昭和10年	昭和9年	増減	%
銑鐵	158,465	140,953	17,512	333,779	301,019	32,760	10
{ 内、鮮							
{ 滿洲	49,100	35,804	13,296	94,034	75,156	18,878	25
普通鋼	347,611	290,105	57,306	705,815	568,404	137,411	24
販賣向鋼片	10,966	8,665	2,301	22,215	14,895	7,320	49
同シートバー	14,166	13,225	941	26,066	25,329	737	2
鍛鋼品	5,116	5,514	-398	9,604	10,938	-1,334	-12
普通鋼壓延鋼材	291,311	213,008	78,303	372,916	428,214	-144,702	33
壓延鋼材内譯							
厚0.7mm以下鋼板	28,908	20,889	8,019	54,308	37,395	16,913	45
其他鋼板	60,227	44,787	15,440	114,774	90,284	24,490	26
力板	7,380	2,357	5,023	14,882	5,238	9,644	184
鉄棒	75,416	46,304	29,112	146,871	95,754	51,117	52
形鋼	40,667	28,538	12,129	79,609	56,484	23,125	40
軌條	29,864	26,750	3,114	65,890	57,206	8,684	15
線鋼	30,647	28,934	1,713	62,372	60,375	1,997	3
鋼材	14,142	11,619	2,523	26,708	19,492	7,216	37
其他	4,060	2,830	1,230	7,502	5,986	1,516	25

備考 鉄力板の生産は昭和9年に於ては扶桑鋼業會社の生産を含まず。

内外最近刊誌参考記事目次

Iron Age. No. 5-8. Jan-Feb. 1935.

- Continuous controlled atmosphere furnace used to harden Automobile valve and clutch springs. F. L. Prentiss. No. 5. p. 33.
- Improved method for determining the corrosion resistance of Cr and Cr-Ni-steel. C. M. Johnson. No. 6. p. 12.
- Light-weight cellular Brick made for Furnace insulation. T. E. Wood. No. 6. p. 26.
- Bright normalizing and deoxidizing of sheet and strip. R. R. Lapelle. No. 7. p. 26.
- Brittleness in steel. C. L. Shapiro. No. 8. p. 12.
- Dynamic strength of machine Parts affected by Quality of surface. A. V. De Forest. No. 8. p. 18.
- New silicon steel commends itself to the electrical Industry. T. W. Lippert. No. 8. p. 23.

Die Giesserei. Heft. 3. 22 Jahrg. 1. Feb. 1935.

- Einfluss der Schmelzbehandlung durch eisen-oxydulreiche und saure oxydularme Schlacken auf die Kristallisation und die mechanischen Eigenschaften von grauem Gusseisen. P. Bardenheuer. A. Reinhardt. s. 45.
- Zum Schmelzen und Giessen von Sondermessingen. H. E. Herrmann. s. 52.
- Formen eines Dampfzylinders für einen Gaskompressor nach Lehmmodell. Gustav Schüle. s. 55.

Die Giesserei. Heft 4. 22 Jahrg. 15. Feb. 1935.

- Koks im Giessereischachtofen. W. Hollinderbäumer. s. 73.
- Soll man feinkörniges Gussgefüge durch richtiges Gattier oder durch Ueberhitzen erzeugen? Wie beseitigt man die Wandstärkenempfindlichkeit? E. H. Bernhard Osann. s. 76.
- Ein kolorimetrisches schnellverfahren zur Siliziumbestimmung in Eisen und Stahl. Haus Pinsl. s. 78.
- Zur Normung der Kerneinlegetoleranzen. Fritz Brobeck. s. 79.

Stahl und Eisen. Heft 4-8. 55 Jahrg. Jan-Feb. 1935.

- Massnahmen zur Einsparung ausländischer Rohstoffe im Betriebe von Hüttenwerken. Penserot Ludwig. s. 81.
- Ingenieur und Kaufmann. Rummel Kurt. s. 86.
- Lager aus Kunstharz-Pressstoff an stelle von Metall- und Pockholzlagern. Kiel Frisz. s. 105.
- Aus der Geschichte des Bochumer Vereins für Bergbau und Gussstahlfabrikation. Dickmann. s. 110.
- Aus der Tätigkeit des Vereins deutscher Eisenhüttenleute im Jahre. 1934. s. 137.
- Einfluss kleinster Beimengungen von Kupfer und Nickel auf unlegierte stähle. Bennek Hubert. s. 160.
- Das Kaltrichten von Schienen und Profilleisen. Flügge August. s. 177.
- Aufbau der Kunstharz-Pressstoffe für die Anfertigung von Gleitlagern. Stodt Willy. s. 183.
- Das Institut für metallkunde an der Technischen Hochschule in Berlin. s. 185.
- Erfahrungen mit sondersteinen an Siemens-Martin Oefen. M. F. Wilhelm. s. 201.
- Neues Feineisen und Drahtwalzwerk. s. 206.

Mitteilungen aus dem Kai.-Wil.-Inst. Band XVI. Lieferung 15-21.

- Ueber die magnetischen Eigenschaften natürlicher und künstlicher Eisen-Sauerstoff-Verbindungen. Walter Luyken und Ludwig Kraeber. s. 169.
- Einfluss der Form des Probestabes, der Art der Einspannung, der Versuchsgeschwindigkeit und der Prüfmaschine auf die Lage der oberen und unteren Streckgrenze von Stahl. Friedrich Körber und Anton Pomp. s. 179.
- Untersuchungen über den metallurgischen Verlauf des sauren Siemens-Martin-Verfahrens. Peter Bardenheuer. s. 189.
- Ueber die Bindungsform des Kohlenstoffs in gehärteten und angelassenen Stählen. Frany Wever und Gerhard Naeser. s. 201.
- Die spezifische Wärme des Eisenkarbides Fe₃C. Gerhard Naeser. s. 208.
- Ueber den thermischen Zerfall des Eisen karbides Fe₃C. Gerhard Naeser. s. 211.
- Die Verformungsverhältnisse beim Drahtziehen. Erich Siebel. s. 213.
- Spannungen und Werkstofffluss beim Rohrziehen. Erich Siebel und Eberhard Weber. s. 217.

Ueber die Abhängigkeit des Fließbeginns von Spannungs-verteilung und Werkstoff. Erich Siebel. s. 225.

(鈴木)

石炭時報 第10卷 第3號

- 石炭液化の實驗成績に就て 遠藤 義臣 (2)
- 截炭機の構造に就て 高橋 錦一 (17)

工業化學雜誌 第38編 第3册 第445號

- アルドライ (Aldrey) 型輕合金の配合法に關する研究 岸野 佐吉 (262)
- 配合法を異にするアルドライ (Aldrey) 型輕合金の時效に關する研究 岸野 佐吉 (266)

日本化學會誌 第56帙 第2號

- 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究 (第8報) Fe, Ni, Co と共存する Al の一分離定量法に就て 加藤 久次 (210)

大日本窯業協會雜誌 第43集 第507號

- 珪酸苦土質の耐火及び電氣材料ステアタイトの研究 (第4報) 永井彰一郎、井上 義一 (13)

東京工業大學々報 第4卷 第2號

- 金屬薄膜の電氣傳導 福田 勝、齋藤 幸男 (112)

電氣評論 第23卷 第3號

- 我國に於ける電熱の需要狀況 石川芳次郎 (213)
- 銻接用直流發電機の特性に關する批判 岡本 越、外2名 (254)
- 電熱材料の諸問題 清水 勤二 (260)

日本鑛業會誌 第51卷 第598號

- 鋼索及び鋼索撚子の彎曲應力に就て 水田 準一 (126)

北海道石炭鑛業會々報 第246號

- ザールの石炭 熊澤 良雄 (28)

機械と金屬 第2卷 第3號

- 最近の鋼管引拔法 絹川武良司 (8)

機械學會誌 第38卷 第215號

- 珪素鋼鈹の眞空燒鈍による效果 (第1報) 淺川 勇吉、長沼 昭郷 (153)
- 燒鈍作用に伴ふ一效果 淺川 勇吉、外5名 (157)
- 金屬の引拔作用に關する研究 淺川 勇吉、外4名 (159)

日立評論 第18卷 第3號

- 點銲接に於ける基礎的要素と點銲接機 佐々木和作 (21)

金屬の研究 第12卷 第2號

- タンゲステン磁石鋼の燒入硬度並に頑磁力に及ぼす燒鈍の影響 小島 義正 (79)
- 銻鋼中より非金屬介在物の上昇分離に關する一考察 福島 政治 (89)
- 鐵鋼の脫炭促進に就て 小林 正美 (101)
- 金屬セメンテーション (第1報) アルミニウムに依るセメンテーション (II) 加瀬 勉 (120)
- 氷の融解點に於ける反磁性係數の變化に就て 清水與三松 (129)

鑄物 第7卷 第3號

- 曲蒸氣管用接手の製作に就て 海軍艦政本部 (115)
- ピストンリング金鑄型製作法 大阪鐵道局鷹取工場 (118)
- マグネシウム合金鑄物に就て 古知幸次郎 (129)

海外經濟事情 昭和10年 第5號

- 硫酸安母尼亞概況 (昭和10年1月15日附在英帝國商務參事官松山晋二郎報告) (89)
- 獨逸自動車工業狀況 (1934年) (昭和10年1月30日附在獨帝國商務書記官長井亞歷山報告) (99)
- 世界鐵鋼生產狀況 (昭和10年1月15日附在獨帝國商務書記官長井亞歷山報告) (100)

朝鮮鑛業會々報 第147號 昭和10年3月1日

- 反射爐製鍊法採用に就いて 中島彦太郎 (2)
- 獨逸の鑛業 福島儀太郎 (9)

電氣化學 第3卷 第3號

アルミニウムの蒸餾 (第1報) 山口與平、中澤治男 (92)
理化學研究所彙報 第14輯 第3號
 銅合金の時効硬化 (第1報) 眞鍮の時効硬化

田丸 莞爾 (139)
燃料協會誌 第150號 3月號
 滿洲に於ける液體燃料事業に就て 水谷光太郎 (307)
 我國石炭鑛業の趨勢 古田 慶三 (316)

採鑛冶金月報 第13年 第3報
 亜鉛電鍍用のアルミニウム電極に就て 仲田 旭 (63)
電氣製鋼 第11卷 第3號

カイザー・ウィルヘルム鐵鋼研究所(1)に於けるクリープ・リミット(2)に關する最近の研究に就いて 小島 義正 (97)
 高周波電氣製鋼爐 成瀬 惠 (108)

製鐵研究 第141號 昭和10年2月28日
 鑛滓鑄塊に就て 香春三樹次 (209)
 蒸氣管保温の合理的厚さに就て 淺村 峻三、外2名 (218)

ピリヂン鹽基に就いて 高田 勇 (233)
 鋼塊用鑄型製作に就て 目黒 斌 (243)
外務省通商局日報 第65號 昭和10年3月28日

英國輸入鐵鋼製品に對する増稅斷行 (3月27日著在英、松山商務參事官電報) (369)
滿洲技術協會誌 第12卷 第72號

最近數年間に於ける主要金屬市價の動搖と需給の關係 齊藤 大吉 (187)
 電氣化學工業 有森 毅 (193)

海外經濟事情 昭和10年 第6號
 重慶市新工業概況 (昭和9年11月1日附在重慶帝國領事申野高一報告) (50)

土耳其石炭產出狀況 (昭和10年1月24日附在土帝國商務官本重志報告) (93)
 米國自動車工業概況 (1934年) (昭和10年1月11日附在シカゴ帝國領事代理仲内憲治報告) (23)

土木學會誌 第21卷 第3號
 水道鐵管破裂の復舊作業と所要時間に就て 岩崎富久 (343)
 送電用鐵塔に對する風壓 太刀川平治、大迫 貞治 (413)

電氣化學 特別號 昭和10年3月25日
 電氣分析 箱守新一郎 (14)
 電鍍及び電鍍 正木 康作 (16)

金屬の腐蝕及び防錆 中島 正巳 (20)
 濕式電氣冶金 平社敬之助 (23)
 無機電解酸化還元 井上 春成、北川 二郎 (26)

非水溶液の電氣化學 牧島 象二 (30)
 電解透析法 岡 俊平 (33)
 電氣用カーボン 石川 等 (35)

電氣爐 武井 武 (37)
 耐火材料 近藤 清治 (43)
 電氣製鋼及び鐵合金 向山 幹夫 (47)

最近の非鐵合金と其の進歩 三島 徳七 (51)
 電氣鑄接 黃金井晴正 (59)

日本鑛業會誌 第51卷 第599號
 世界經濟復興と銅需要の増進 岡田完二郎 (157)
 滿洲國吉林省夾皮溝金廠の沿革及現況 門倉 三郎 (164)

日本ニッケル情報局技術彙報
 苛性アルカリ處理設備後としてのニッケル及ニッケル合金の性質 岡本 孝 (全卷)

朝鮮鑛業會誌 第18卷 第1號
 撫順炭礦龍風大鑛坑計畫 久保 孚 (1)
 佐渡金銀鑛の普選法 高橋幸三郎 (25)

研究報告 三菱重工業名古屋航空機製作所
 い-13號鋼の繰返熱處理と衝擊抗力 渡瀬 常吉 (127)
 隅肉部の内力集中の一例 須永 信二、大津 良三 (139)

發動機用 Ni-Cr 鋼の單一及繰返衝擊試驗 關口次郎 (182)
 タハード鋼に就て 尾形 康夫 (168)
金屬 第5卷 第4號

最近の耐蝕性金屬材料 田邊友次郎 (109)

種々の金屬の磨耗に就て 伊丹榮一郎 (115)
 金屬の新研究 山口 圭次 (119)
 電氣鑄接 窪田格太郎 (121)

工業化學雜誌 第38編 第4冊 第446號
 最近の化學工業用金屬材料に就て 田邊友次郎 (401)
大日本鑛業協會雜誌 第43集 第508號

耐火材料に關する研究 (第9報) ゼーゲル錐の使用條件に就て (其2) 薪材用本燒窯に於ける實驗 中本 實、坂田 正 (5)

金屬の研究 第12卷 第3號
 Ni-Zn 二元系狀態圖 (第2報) 田丸 莞爾、大澤 與美 (131)

窒化鋼に於ける Al, Cr 元素の硬化作用 錦織 清治 (148)
 金屬セメンテーション (第3報) アルミニウムに依るセメンテーション (III) 加瀬 勉 (159)

CaO·TiO₂·SiO₂-CaO·SiO₂-CaO·Al₂O₃ 2SiO₂ 系の研究 I CaO·SiO₂-CaO·Al₂O₃·2SiO₂ 系平衡圖 西岡卯三郎 (168)
工業雜誌 第71卷 第892號

工學教育擴張の急に就て (141)
日本化學會誌 第56帙 第3號
 アルミニウムに對するマグネシウムの固態溶解能に關する研究 岸野 佐吉 (322)

エンヂニヤリング Vol. 23, No. 4
 金屬の疲勞に就て 清水 篤磨 (140)
 選炭法と其の一新例に就て 高原萬壽雄 (144)

材料の疲勞強さと許容應力 櫻井 忠一 (150)
 金屬電弧鑄接設計法 三好 巽 (156)
機械學會誌 第38卷 第216號

鑛物質粒體の熱常數に及ぼす水分の影響 棚澤 泰 (207)
 比熱測定法の改良と其の結果 棚澤 泰 (209)
 珪素鋼の結晶の成長 横山 武人 (211)

金屬切削に關する研究 (第1報) 炭化タンゲステン刃物による高速度切削の研究 關口八重吉 外2名 (221)
日本ニッケル情報局

航空機工業に於けるニッケル合金材料 田路 坦 (全卷)
工 政 第180號 昭和10年4月10日

輸出珪鐵鑄器工業の近況と其の動向 高橋 徳十 (12)
 重工業に必要な二、三の特殊合金鑄鐵 百々 初男 (16)
 鐵屑漫談 上村 義夫 (20)

朝鮮鑛業の近況 石田千太郎 (33)
理化學研究所彙報 第14輯 第4號
 ニッケル銅觸媒の性能に就て 吉河 清 (308)

鑄 物 第7卷 第4號 昭和10年4月
 鐵道車輛と鑄物 吉澤 英雄 (183)
 鋼塊用鑄型製作に就て 目黒 斌 (192)

2-3の特殊可鍛鑄鐵に就て 内藤 逸策 (202)
大連商工月報 第236號 昭和10年4月
 滿鐵の資本的解剖 (6)
 熱河産業の現勢を看る (42)

海外經濟事情 昭和10年 第7號
 英國貿易概況 (昭和10年2月1日附在英帝國商務參事官松山晋次郎報告) (41)

鉾力生産及輸出狀況 (昭和10年2月15日附在獨帝國商務書記官長井亞歷山報告) (76)
電氣化學 第3卷 第4號
 金屬にアルミニウムを電鍍する方法の研究 (其の1) 龜山 直人 外5名 (1)

電解成極容量と起電機構 野口 孝重 (141)
 均一電着性に關する研究 第1報 測定法及び定義に就て 小川 芳樹、西方 榮一 (149)

電解透析法による水酸化ニッケルの中の硫酸根除去 岡 俊平 (153)
電氣學會雜誌 第55卷 第4冊

電氣製鋼 向山 幹夫 (287)
 鐵及び鐵合金 向山 幹夫 (291)
 濕式電氣冶金 平社敬之助 (295)